

2019年6月6日

あきる野市公共交通検討委員会

委員長 小根山裕之 殿

あきる野市公共交通検討委員会

委員

公共交通優先検討地域を対象とした実証実験についての提案

公共交通空白地域の優先検討2地域について、私は、以下のように提案します。

1. 五日市深沢地域

現在盆掘地区で行っている地域交通事業を深沢地域と連動させ、定路線型交通として運行すること。理由として

① ワークショップ、アンケートの結果では、1位が、「ドア-to-ドア」2位が「タクシー代の補助」となっているが、実際の利用の頻度についての地域住民のアンケートでは、「定路線型の交通は、週に2～3回程度が、33.3%であり、利用したい頻度も他と比べて高くなっている」からもわかるように、定路線型交通に対する要望は高いと判断できます。また「ドア-to-ドア」は、その内容が不明確で、参加者は自分の家まで来てくれる「路線」バスとの認識も見られました。

② タクシーチケットの配布は、ひとつの方法ではありますが、あくまで公共交通を補完する手立てです。定路線交通の運行があるかないかでは、その地域の居住性において格段の差になります。これは、自分が住宅を求めるときを考えればよく分かります。鉄道があるか、駅からどのくらいか、バスが通っているか、バス停からどのくらいかと考えていくことでもわかるかと思えます。

③ 高齢者の運転による事故が最近特に報道されています。このような中で免許返納を考えたり、周りから勧められている方も多いはずですが。定路線型の公共交通の運行は、高齢者の運転の機会を減らすことが出来ます。現在当該地域では、各世帯には、必ず運転免許保有者がいますが、運転免許保有者がいなくなると、この地域では住み続けることが出来なくなります。実際そのような世帯もあったと聞いています。定路線型の交通があれば、歴史ある谷あいの集落を維持し、住み慣れた土地、人との絆の中で暮らし続けることが可能となります。

④ 盆掘と深沢を結ぶ交通事業は、民業圧迫といわれているようですが、中途半端な対応でなく、この2つの地域の公共交通をまず第一に考えることです。民業圧迫については、国・都などの救済のスキームがあります。また「るのバス」の増車等でもっと民業の力を活用させていただくことがあります。JR東の青梅線の新企画のように、行政として観光を多面的に展開することです。

⑤ タクシー代の補助については、簡単ではあるが、他の地域からの要望もあり、導入にあたっては、その整合性について検討しておく必要があります。つまり他の空白地域でない住民にたいしての提供が考えられなければタクシー代補助は辞めるべきです。

2. 草花折立地域

定時・定路線型の公共交通の検討については、異論はありません。

「るのバス」の場合、増車の中で引田・淵上・代継の空白地域と当該地域の運行を図るべきです。

「巡回ミニバス」の場合、「幹線」に繋げていく場合と「自己完結型」が考えられます。「幹線」として、西東京バスと「るのバス」がありますが、「るのバス」に繋げる場合、「るのバス」1台の現状では難しく、「るのバス」増車がない場合は、秋川駅・市役所・中央公民館を回る、「自己完結型」を求めます。

以上